2022年度事業計画

2022年3月

福岡国際空港株式会社
FUKUOKA INTERNATIONAL AIRPORT CO.,LTD.

取組方針及び目標値

FIAC
FUKUOKA INTERNATIONAL AIRPORT CO.,LTD.

取組方針

- 空港施設内における新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策及び国と連携した水際対策の徹底に努め、**お客さまが安心して福岡空港をご利用頂ける環境を提供**します。
- エアラインセールスを継続的に実施し、**就航路線の復便、航空ネットワークの拡充**に取組むとともに、九州域内の自治体及び観光推進団体等と連携のうえ、**旅客需要喚起**に努めます。
- 国際線地区においては、将来の航空需要を確実に受入れるべく旅客ビル施設の増改築等、**空港容量の拡大に向けた環境整備**に取組みます。また、国内線地区においては、旅客の利便性向上に加えて、航空機利用以外のお客さまを多く呼び寄せる、**魅力ある施設開発計画を推進**します。
- 福岡空港の持続的な発展に向け、**空港周辺地域のご要望に応じた地域共生事業**を推進します。
- 収益向上施策の推進やDX活用による生産性向上、**脱炭素化に向けた環境対策**に取組み、**リスクや環境変化に強い組織風土を醸成**するとともに、福岡空港全体でのCS(顧客満足度)向上に取組みます。

旅客数(2022年度)

国内線	1,380万人
国際線	130万人
合計	1,510万人

貨物取扱量(2022年度)

国内線	16万トン
国際線	3万トン
合計	19万トン

財務指標(2022年度)※

営業収益 (内、空港運営事業)	242億円 (65億円)
営業費用 (運営権償却費を含む)	312億円
営業利益	▲70億円
当期純利益	▲147億円

※ステークホルダーからの支援により2022年度における資金繰りを確保する予定

主な取組み①

FIAC
FUKUOKA INTERNATIONAL AIRPORT CO.,LTD.

感染拡大防止対策、安全・保安の推進

- 旅客ビル施設出入口への消毒液設置等の感染拡大防止対策及び水際対策の継続実施
- 国より承継された安全・保安業務（空港の保安防災業務等）の熟度向上
- コロナ禍でも空港基本施設（滑走路、エプロン等）の着実な維持管理
- 安全・安心な空港運営を通じた高い定時出発率の維持・向上

※2022年2月、航空関連情報の収集や提供を行うCirium社による、2021年の「Large Airport」カテゴリーの定時出発率ランキングで福岡空港が2位を獲得。

2021 ON-TIME EXCELLENCE
CIRIUM ON-TIME PERFORMANCE REVIEW

CIRIUM 2021

LARGE AIRPORTS CATEGORY
Fukuoka Airport

This is to certify that Fukuoka Airport is in the Top 20 list of the 2021 Cirium Performance Award for On-time Excellence in the Large Airports category, with an on-time performance of 95.74%.

Jeremy Bowen, CEO, Cirium

Cirium社による定時出発率に係る表彰※

就航路線の復便、航空ネットワークの拡充

- 国内線・国際線の早期復便に向けたエアラインとの継続協議
- 中国や東南アジア等の新規路線の就航実現、
  及び更なる路線網拡充に向けた誘致活動の継続
  - ✓ アジア地域国際航空路線商談会（Routes Asia）への参加やエアラインへの訪問等営業活動の実施
- 九州域内の自治体及び観光推進団体等との連携を通じた
  インバウンド、アウトバウンドの旅客需要喚起
  - ✓ 九州・福岡の需要拡大に向けた海外の旅行事業者向けWebセミナー、プロモーションの実施
- 旅客需要の活性化並びに復便の早期化に向けた海外空港等との協力関係の構築・連携施策の実施

九州旅行博覧会（2022年2月）

主な取組み②

FIAC
FUKUOKA INTERNATIONAL AIRPORT CO.,LTD.

魅力ある施設開発計画の推進

（※利便性向上に関する施策の基本的な考え方：Free『楽に』Fast『早く』Fun『楽しく』）

◻ 国際線地区

- 国が実施する滑走路増設事業に合わせ、年間旅客数1,600万人をお迎えできる環境整備に向けて、2022年5月、国際線旅客ビル施設増改築工事に着工

- 搭乗されるお客さまが「より楽に」「より早く」「より楽しく」空港をご利用いただける施設整備の推進

Free ✓ 出発ロビーの拡張（2,700㎡→6,600㎡）

Fast ✓ 保安検査場の検査レーン増設（6レーン→9レーン）

Fast ✓ 先進設備の導入等による出発・到着手続きの短縮

Fun ✓ 免税店面積を約4倍に拡張（1,500㎡→6,000㎡）

- 2022年4月、国際線立体駐車場（1期）（約1,000台）工事に着工

出所：梓設計・HOK・西日本技術開発共同企業体

国際線3階保安検査場（イメージ）

出所：株式会社船場

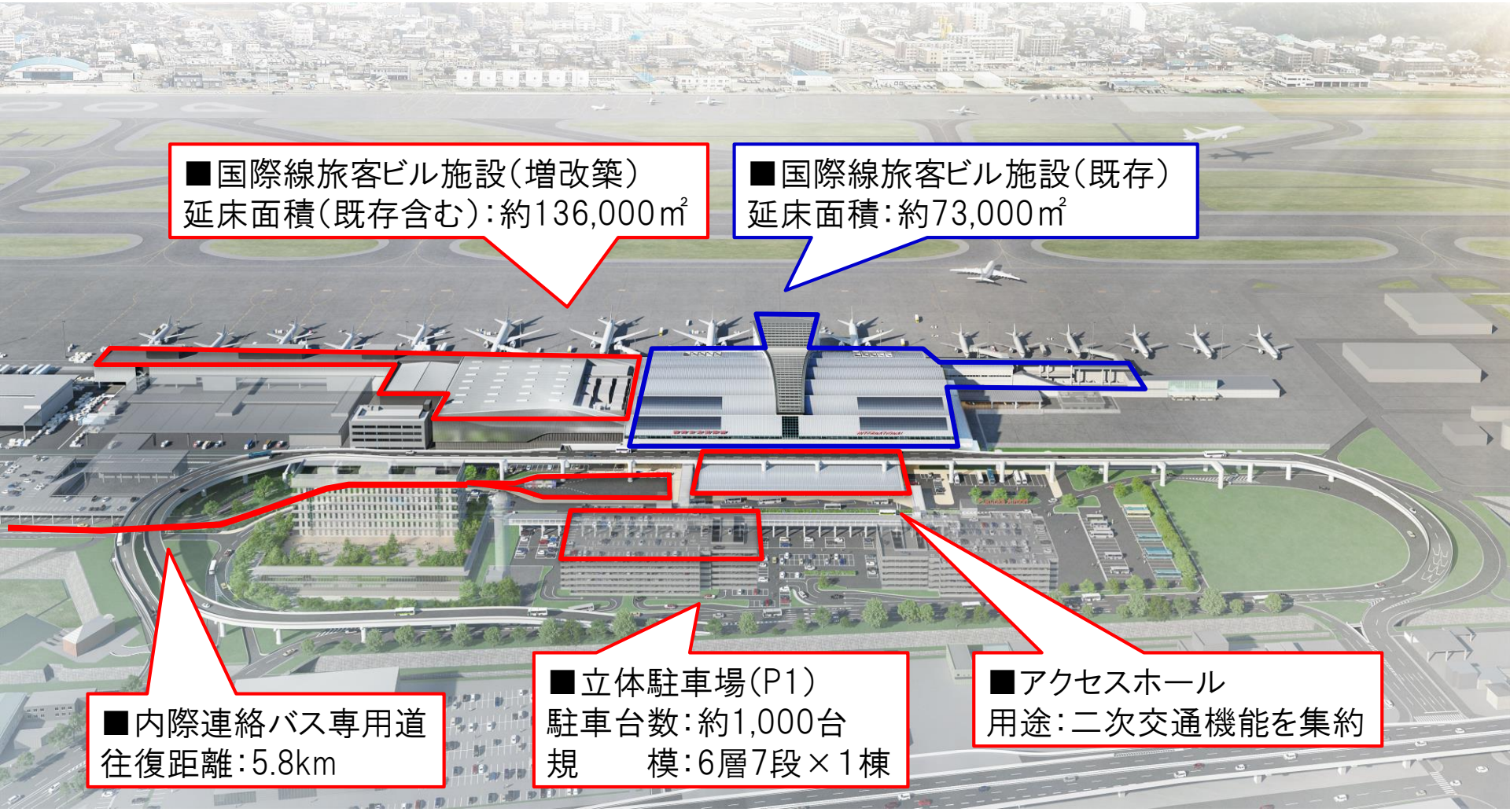
国際線3階免税店（イメージ）

主な取組み②

FIAC
FUKUOKA INTERNATIONAL AIRPORT CO.,LTD.

魅力ある施設開発計画の推進

□ 国際線地区 全体図(2025年3月末の施設整備後イメージ)



出所:梓設計・HOK・西日本技術開発共同企業体

主な取組み③

魅力ある施設開発計画の推進

■ 国内線地区

- 国内線旅客ビル施設の交通機能強化、及び旅客の利便性向上に繋げる開発計画の策定
  - ✓ 旅客動線に沿った交通機能の再配置・バスターミナル新設
  - ✓ ホテル・オフィス機能を設け、都市機能を補完
- 福岡・九州から航空機利用以外のお客さまを多く呼び寄せる複合施設（商業施設・ホテル）開発計画の策定
- 立体駐車場の建替え（駐車台数：837台→約1,600台）

出所：梓設計

国内線2階北側保安検査場（イメージ）

出所：梓設計

国内線1階バスターミナル（イメージ）

収益向上施策の推進、DX活用による生産性向上

- 航空機利用以外のお客さまの集客促進、売上増加施策の実施
  - ✓ エアライン等と連携した空港内イベントの実施
  - ✓ SNS（Instagram、LINE、Twitter等）を活用した情報発信の強化
- システム導入による業務効率化、案内ツール、旅客ビル施設内の清掃等へのDX活用による生産性向上

ロボット床面洗浄機

主な取組み④

FIAC
FUKUOKA INTERNATIONAL AIRPORT CO.,LTD.

脱炭素化に向けた環境対策

- 福岡空港の脱炭素化に向けて、国と共同で策定する「空港脱炭素化推進計画」に基づく取組みを推進
  - ✓ 国際線旅客ビル施設の既存照明LED化
  - ✓ グランドハンドリング資機材の共用化
    （運用効率化、資機材の移動距離短縮により、安全面、経済面に加えて環境面（CO_2排出量削減）にも高い効果を発揮）
  - ✓ 国際線旅客ビル施設増改築での高効率設備導入（熱源設備等）、航空灯火LED化の拡充検討 等

トーイングカー※1（JAL/ANAの共用）

CS（顧客満足度）向上

- 5スターエアポート獲得（2025）に向けたTEAM FUK※2（チーム福岡空港）によるCS活動の推進
  - ✓ 接客スキル向上に向けたCSに関する研修や講演会、他空港連携（CSに関する意見交換等）の実施
  - ✓ ご搭乗のお客さまに向けたお見送り活動や挨拶活動、空港周辺の清掃活動等の推進
  - ✓ SKYTRAX社によるスタッフサービス部門調査で4.3ポイント、同社によるCOVID-19 Airport Safety Ratingsで4スターの獲得、国際空港評議会（ACI）によるAHAプログラム認証の継続取得

挨拶活動

※1 トーイングカーとは駐機スポットからの後退時や空港内の移動の際に機体を所定の位置まで牽引する作業車を指す。
※2 2020年8月から福岡空港全体のCS向上を目的に福岡空港の約180の事業者で構成されている組織

主な取組み⑤

FIAC
FUKUOKA INTERNATIONAL AIRPORT CO.,LTD.

地域共生事業の推進

- 空港周辺地域のご要望に応じた、環境変化や時代の潮流にあわせた地域共生事業の推進
- 地域共生事業の「まち・ひとづくり」施策により、空港周辺地域及び空港の持続的発展に貢献

福岡県の空港の将来構想の実現に係る協力方針

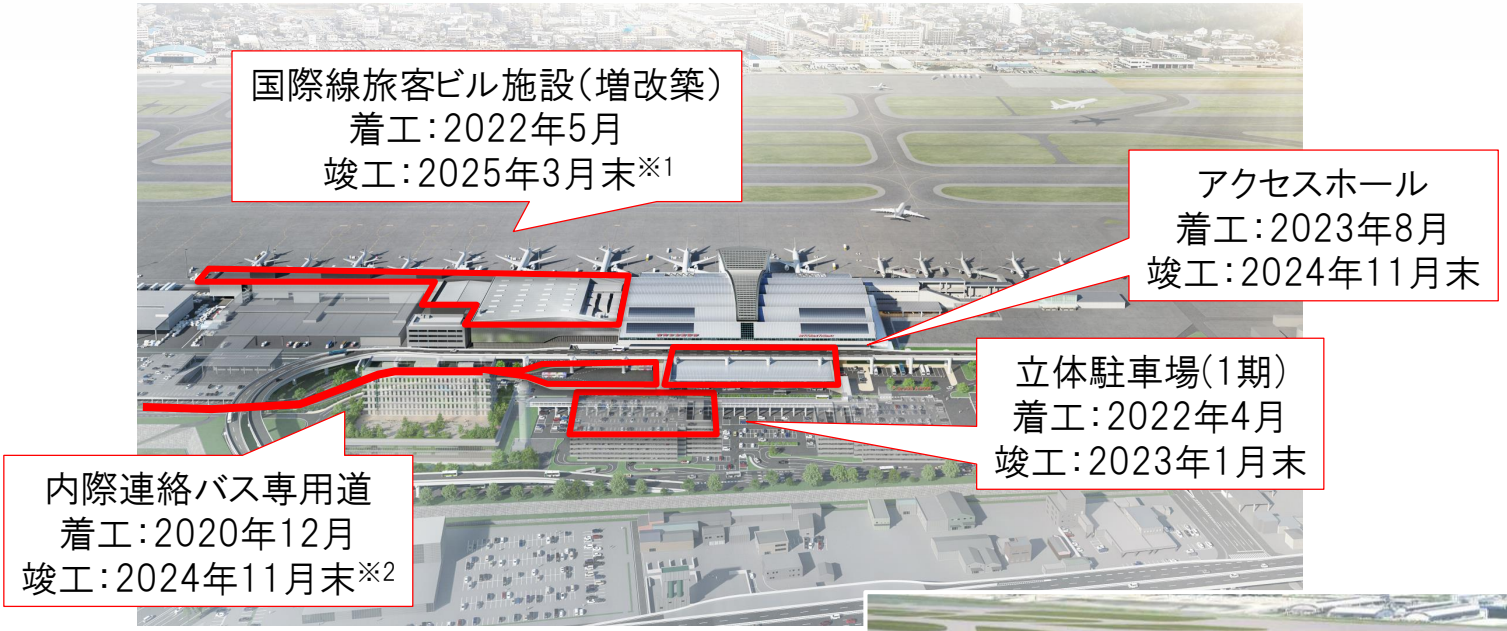
- 24時間利用可能な空港、発着枠に余裕がある北九州空港の特性を活かし、
  - ✓ 北九州空港への貨物便の増便・誘致
  - ✓ 北九州空港と一体となり、福岡のプロモーション活動を推進

設備投資

- 空港活性化を目的とする設備投資：約103億円
  - ✓ 国際線旅客ビル施設（増改築）、及び立体駐車場（1期）の着工
  - ✓ 複合施設の実施設計、立体駐車場の着工
  - ✓ 内際連絡バス専用道化に向けた整備
- 空港機能維持を目的とする設備投資他：約14億円
  - ✓ 空港基本施設の維持管理
  - ✓ 旅客ビル施設に関する修繕・更新 他

施設整備スケジュール（予定）

FIAC
FUKUOKA INTERNATIONAL AIRPORT CO.,LTD.



出所：梓設計・HOK・西日本技術開発共同企業体

国際線地区
（2025年3月末の施設整備後イメージ）

※1　既存の国際線旅客ビル施設の内部改修は
　　2025年11月末竣工予定
※2　国内線地区バス乗降場は2025年整備予定

出所：梓設計・隈研吾建築都市設計事務所・西日本技術開発共同企業体

国内線地区（イメージ）